

自主性・積極性・主体性のある子どもの育成

自主性・積極性・主体性のある子どもを育成するには、学級活動で、授業でそういう場を設定していかなければ、育たない。グループで話し合って何かを決めたり、グループで企画したり、協力して一つのものを作り上げたり、調べ学習を手分けしてまとめたり、学級での問題を話し合ったりする場面を多く取り入れる必要がある。

そういう場面で、民主的に話し合い、みんなが合意して、活動を進めているように見えて、実は、そうではなく、子ども同士の間関係の上に成り立っている場合がよくある。

よく子どもたちを観察し、よりよい方向に持っていかなければならない。

○その場を仕切る子どもの特徴

- ・話し合いの進行係になる場合もある。
- ・話し合いの時間が短く、すぐにまとまる。
- ・一人でしゃべっている。他の子どもは、ほとんど聞き役。
- ・みんなを下から支える仕事やしんどい仕事は、ほかの子どもに回す。
- ・命令をして人を動かしたり、目立つ仕事は、自分がやろうとする。
- ・自分の思い通りにならないと、ふてくされたり、ほうりだしたりする。
- ・比較的学力の低い子どもに多い。
- ・全員の賛成を確認していく。
- ・先生にとっては、大変都合がよい。みんなをまとめ、積極的にやる子どもに見える。

正当な方法でできないようにしていく。
力で抑えるのは、逆効果。

○みんなをまとめようとする子どもの特徴

- ・みんなの意見を聞こうとする。
- ・話し合いに時間がかかり、なかなか結論が出ない。
- ・できない子、力の弱い子をフォローしようとする。
- ・みんながやりたがらない仕事を引き受けてしまう。
- ・強引ではないが、何となく話し合いの進行係になる。

正当な方法で援助する。

○告げ口をいいに来る子どもの特徴

- ・複数で来る場合が多い。
- ・自分たちの正当性を訴える。
- ・話し合いがすんだ後で言ってくる場合が多い。
- ・自分たちの意見が通らなかつたりすると、話し合いがおかしいとか、あの子ばかりとか、不公平であるとか言ってくる。
- ・自分たちの思い通りにしたいため、邪魔になる子の問題点を指摘して、担任に排除してもらおうとする。

自覚できるように話していく。

○本当に困って相談に来る子どもの特徴

- ・話し合いの途中で相談に来る。
- ・問題の子を注意してほしいとは言いが、かえてほしいとはいわない。
- ・問題の子のよい点も認めようとする。
- ・どうしてほしいという要望は、持ってこない。

しっかりと相談にのる。

教育とは、指導ではない。

観察→刺激→相談→案内→激励 である。